



## ベスト プラクティス

---

- [クラスタ検出 \(1 ページ\)](#)
- [アップグレード \(1 ページ\)](#)
- [ESXi ホスト \(2 ページ\)](#)
- [移行およびインストール仮想マシン \(2 ページ\)](#)
- [移行前 \(2 ページ\)](#)
- [移行後 \(2 ページ\)](#)
- [タスクの検証 \(3 ページ\)](#)
- [Cisco Prime Collaboration Deployment シャットダウン \(3 ページ\)](#)
- [タスクのモニタリング \(3 ページ\)](#)
- [SFTP データストアでのファイルの管理 \(4 ページ\)](#)
- [WAN を介したクラスタリングでの Cisco Prime Collaboration Deployment の使用 \(4 ページ\)](#)
- [移行中のシーケンス \(4 ページ\)](#)
- [サーバの再アドレス付け \(4 ページ\)](#)
- [パブリッシュおよびサブスクリバのフレッシュ インストール \(5 ページ\)](#)
- [Unified CM および IM and Presence クラスタのフレッシュ インストール \(5 ページ\)](#)
- [E メール通知 \(5 ページ\)](#)
- [テスト電子メール \(5 ページ\)](#)

### クラスタ検出

クラスタの検出中、小さい Cisco Options Package (COP) ファイルが検出対象サーバにインストールされます。したがって、検出を開始する前に、検出対象クラスタ内のサーバでアップグレードまたは COP ファイルのインストールが進行中ではないことを確認してください。

### アップグレード

Cisco Prime Collaboration Deployment アップグレードタスクからアプリケーションサーバ (Cisco Unified Communications Manager、IM and Presence サービス、Cisco Unified Contact Center Express、

または Cisco Unity Connection または ) のアップグレードを開始した場合、アップグレードは Unified Communications アプリケーション GUI または CLI から起動された場合と同様の方法で機能します。このため、アプリケーション サーバの GUI から直接実行する場合と同じアップグレード前手順およびアップグレード後の検証を行うことをお勧めします。

## ESXi ホスト

移行やフレッシュインストールに使用する仮想マシンが、Cisco Prime Collaboration Deployment システムに導入された ESXi ホストに存在していることを確認します。この ESXi host では、分散リソース スケジューラ (DRS) または vSphere vMotion を許可するべきではありません。

## 移行およびインストール仮想マシン

新しいクラスタの仮想マシン (VM) を作成するときには、常にインストールする Unified Communication アプリケーションに対して適切なオープン仮想アプライアンス (OVA) を使用してください。既存の VM を移行の宛先 VM として使用することはできません (新規に作成される VM を使用してください)。新しい VM をインストールするために Cisco Prime Collaboration Deployment が開始されている場合に移行が失敗したら、この VM を削除し、適切な OVA を使用して新規 VM を作成する必要があります。



(注) 複数の ESXi ホスト サーバで VMware を設定する必要がある場合は、ESXi ホスト サーバの一意の名前を入力して、OVA からのデフォルト名を使用しないようにします。

## 移行前

### 送信元クラスタ

- クラスタで分散リソース スケジューラ (DRS) を使用してフルバックアップを実行することをお勧めします。

## 移行後

次に示す移行後のベストプラクティスに従ってください。

- エンドポイントの確認
- データベース複製の確認。たとえば以下のようになります。

```
admin:show perf query class "Number of Replicates Created and State of Replication" ==>query class :
```

```
- Perf class (Number of Replicates Created and State of Replication)
  has instances and values:
```

```
ReplicateCount -> Number of Replicates Created = 676
```

```
ReplicateCount -> Replicate_State = 2
```

以下のリストに、Replicate\_State の取りうる値を示します。

- 0：レプリケーションは開始されていません。これは、サブスクリバが存在していないことが原因です。または、Database Layer Monitor サービスが現在実行されていないうえ、サブスクリバをインストールした後も実行されていないことが原因です。
- 1：レプリケーションは作成されていますが、そのカウントが正しくありません。
- 2：レプリケーションは正常です。
- 3：このクラスタではレプリケーションが正常に実行されていません。
- 4：複製のセットアップに失敗しました。

## タスクの検証

タスクを手動で開始するか、後で開始するようにスケジューリングしている場合は、[検証 (Validate)] ボタンが表示され、タスクに対する検証を手動で実行できます。開始前にタスクの検証を実行し（検証は開始前の任意の時点で実行可能）、仮想マシンの欠落、通信の問題、または ISO ファイルの欠落などの問題を洗い出しておくことをお勧めします。検証が実行されると、ポップアップウィンドウが開き、検証の問題のリストが表示されます。問題が検出されなかった場合、「すべての検証テストにパスしました (All validation tests passed)」というメッセージが表示されます。

## Cisco Prime Collaboration Deployment シャットダウン

最適な結果を得るには、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバをシャットダウンするときに **utils server shutdown** コマンドを使用します。このコマンドを使用しないと、ESXi ホストでネットワーク ファイル システム (NFS) のマウントの問題が発生することがあります。

## タスクのモニタリング

タスクのステータスを表示するには [GUI のモニタリング (Monitoring GUI)] ページを使用します。左側の列のタスクをクリックすると、タスク詳細が右側に表示されます。タスクの各ステップ（エクスポート、インストールなど）は詳細セクションの下の [タスクステータス (Task Status)] テーブルに表示されます。手順の追加の詳細を表示するには、その手順の横の矢印をクリックします。手順の中には複数のタスクアクションが含まれるものもあります。すべてのアクションとそのステータスを表示するにはスクロールダウンします。

## SFTP データストアでのファイルの管理

SFTP データストアのページは、SFTP を介して Cisco Prime Collaboration Deployment サーバに移動された ISO および COP ファイルを表示します。移行、インストール、またはアップグレードタスクで使用できるように Cisco Prime Collaboration Deployment サーバにファイルを置くには、SFTP クライアントを使用して **adminsftp** としてログインします（管理パスワードを自分のパスワードとして使用します）。

Cisco Prime Collaboration Deployment サーバに接続したら、移行またはインストールタスクで使用する ISO ファイルを `/fresh_install` フォルダにアップロードします。COP ファイルを `/upgrade` フォルダにアップロードします。

タスクの完了後に、ISO が別のタスクによって必要とされない場合、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ上でスペースを節約するため SFTP データストアから ISO ファイルを削除することをお勧めします。Cisco Prime Collaboration Deployment のアップグレード時または DRS バックアップの復元時に SFTP データストア内の ISO ファイルが多すぎる場合、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバのスペースが不足することがあります。

## WANを介したクラスタリングでのCiscoPrimeCollaboration Deployment の使用

Cisco Prime Collaboration Deployment サーバおよび他の Unified Communications アプリケーションノードが WAN を介して通信している場合、最小帯域幅として 100 Mbps が推奨されます。

## 移行中のシーケンス

移行タスクの作成時に表示されるデフォルトシーケンスでは、インストール手順ごとに1つのサーバが含まれています。シーケンス画面の編集ツールを使用して、1つの手順に複数のサーバを配置できます。最適な結果を得るには、1つの手順に含めるサーバの数を6以下にしてください。

## サーバの再アドレス付け

サーバの再アドレス付け機能では、各サーバの再アドレス付けの後に強制一時停止が挿入されます。次の再アドレス付け手順に進む前に、サーバが適切に変更されており、電話が登録されていることを確認します。

# パブリッシャおよびサブスクライバのフレッシュインストール

フレッシュインストールタスク（新規 UC クラスタ）に複数のサーバが含まれる場合、Cisco Prime Collaboration Deployment システムは最初に Unified Communications Manager パブリッシャを自動的にインストールし、パブリッシャのインストールに続いて強制一時停止を挿入します。一時停止中、新規にインストールしたパブリッシャの Unified Communications Manager GUI に移動し、[システム (System)] > [サーバ (Servers)] GUI に他のクラスタサーバを追加できます。このクラスタにインストールするすべてのサブスクライバ（Unified Communications Manager サブスクライバ、IM and Presence パブリッシャおよびサブスクライバ）が Unified Communications Manager パブリッシャ GUI に追加されたら、ユーザは [Cisco Prime Collaboration Deployment モニタリング (Cisco Prime Collaboration Deployment Monitoring)] ページの [再開 (Resume)] ボタンをクリックして、フレッシュインストールタスクを再開できます。

## Unified CM および IM and Presence クラスタのフレッシュインストール

Unified Communications Manager ノードと IM and Presence Service ノードの両方でフレッシュインストールを作成する場合、どの IM and Presence サーバがパブリッシャであるかを指定してください。Unified Communications Manager パブリッシャのインストール後、タスクが一時停止します。この一時停止により、Unified Communications Manager Publisher に導入するノードをサブスクライバがインストールできます（[システム (System)] > [サーバ (Server)] GUI ページ）。IM and Presence Service パブリッシャは、このリストに追加される最初の IM and Presence サーバでなければなりません。これにより、IM and Presence Service パブリッシャが最初のノードとしてインストールされます。

## E メール通知

タスクにエラーが発生した場合、タスクは一時停止してユーザの介入を待機します。また、タスクによっては、手動介入を行えるように自動的にタスクシーケンスで一時停止します。タスクの実行時に、ユーザの操作を必要とするエラーや一時停止が発生した場合に通知を送信するようにするため、タスクを実行する前に電子メール通知（[標準 (Standard)] オプション）を設定することをお勧めします。

## テスト電子メール

電子メール通知を設定する場合、[テスト電子メールの送信 (Send Test email)] ボタンをクリックして、Cisco Prime Collaboration Deployment メールシステムが各自のメールサーバに電子メール

ルを送信できることを確認します。テスト電子メールを受信したことを確認します。タスクを実行する前に、このテストを実行してください。